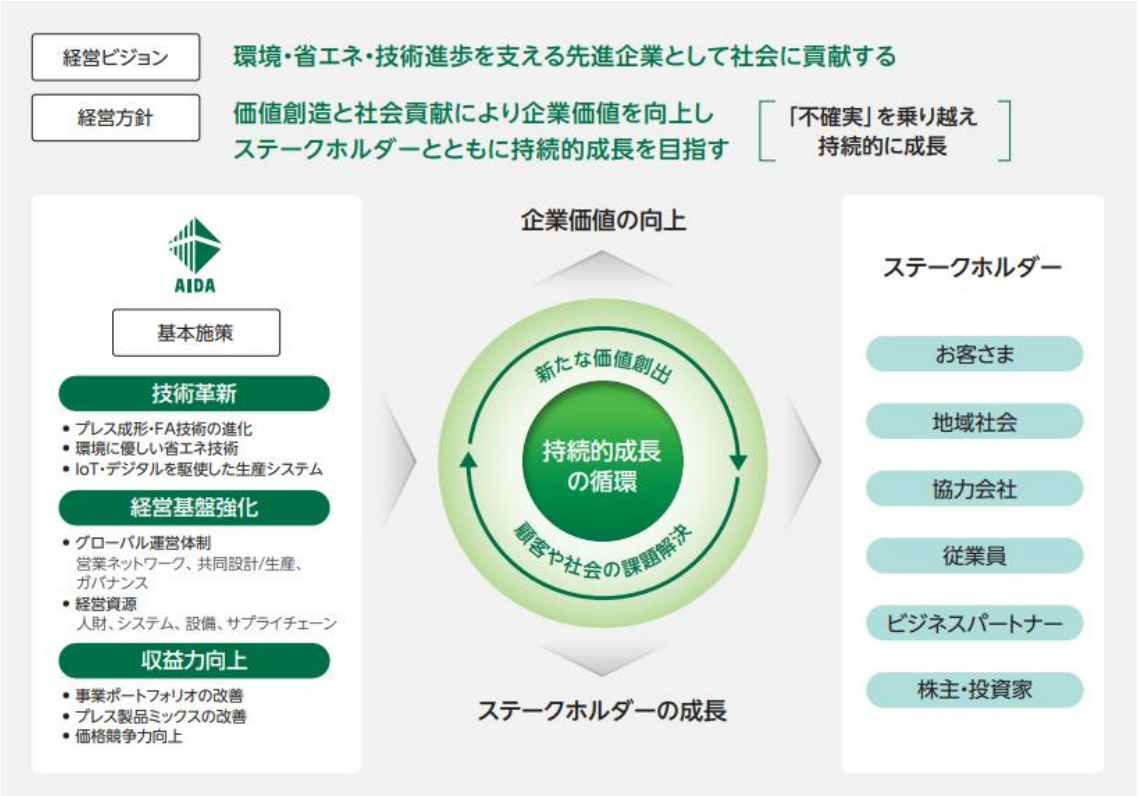
企業名：　アイダエンジニアリング

レポート名：　統合報告書 2022

**1.　この会社が目指している将来の姿が理解できるか**

この会社が目指している将来の姿が理解することは可能である。その理由としては、各分野における進捗状況を整理してうえで、目標を掲げているからである。具体的に述べると、まず初めに２０２２年３月期を振り返っている。ロシア・ウクライナ問題や新型コロナウイルスの拡大によって、物流の混乱やエネルギー価格の高騰などが引き起こされた。しかし当社は、電気自動車需要に支えられて、高速プレスの受注が伸びたとしている。これを踏まえて、中期経営計画について記してある。例えば高速プレスのプレスラインの最適化の改良を目指したり、車体軽量化に向けて軽量素材への成形網力向上のための開発を進めることがわかる。下図は、当社の中期経営計画の概要であるが、とても分かりやすくまとまっている。




(出典：アイダエンジニアリング　統合報告書２０２２)

**2.　この会社の現在の競争優位性が理解できるか**

この会社の競争優位性は理解可能である。なぜなら、この報告書には、企業価値向上を牽引する当社の強みが記されているからである。強みの１つ目は、技術力・商品開発能力である。

成形システム革命ともいわれる世界初のダイレクト駆動式サーボプレスをはじめ、国産初となる様々なプレス機の開発を支えた技術力で進化を続けている。また厚板加工や高速精密加工等、用途・目的に沿った付加価値の高いプレス機械の幅広いラインナップと主要部品の内製化によって、客のニーズにきめ細かく応える最適なプレスラインと、多様化する外部環境への迅速な対応を実現している。2つ目は、トータルソリューションである。プレス機械を中核に、材料供給装置・自動搬送装置等の付帯設備や工法開発までを含めた「成形システム」をトータルで提案し、客に最適なソリューションを提供している。
このように競争優位性が非常にわかりやすくしるしてある。

**3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか**

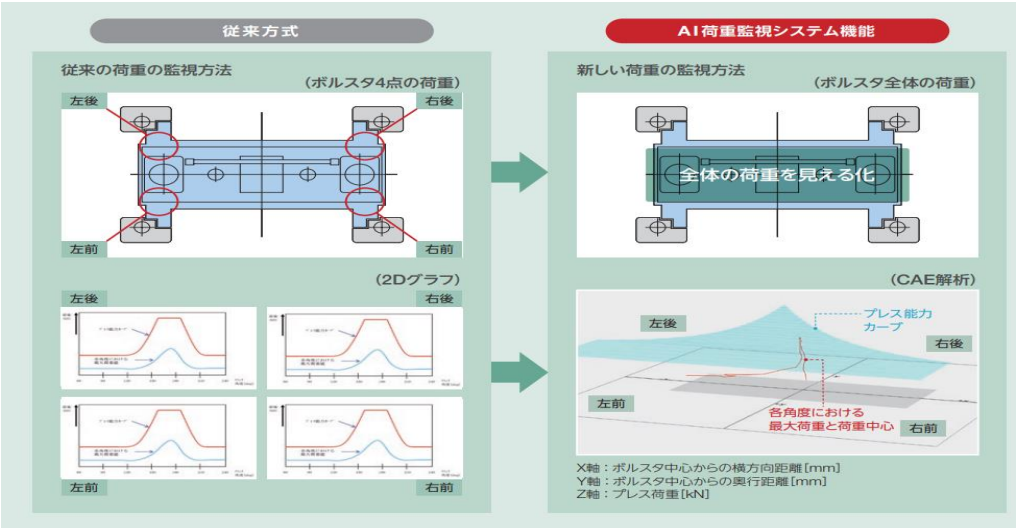
持続性があるかどうかは判断しかねる。確かに上記の通り、アイダは会社独自の技術を持ち競合優位性は確保しているものの、この技術が他社に真似される可能性は否定できない。技術力・商品開発力に長けていることは、競争に優位ではあるが、持続性は断定できない。

**4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか**

この会社で自己の人的資本の価値の向上を達成できると考えるが、その一方で得られないこともある。というのも、会社の現場に AI を用いた荷重監視システムを搭載したからである。現在の日本の会社の多くは、AI を導入して効率を上げることを目指している。そのため、アイダで働くことで、AI とともに働くというスキルを得られるはずである。その代わり、これまで行っていた業務が AI によって削減され、自身の行う仕事の多様性が失われ、思考を減らした、単純な作業に陥る可能性もあると考えられるのだ。

**5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか**

報告書の良かった点は、非常に理解しやすい報告書を目指していることである。上記の通り、アイダでは AI の監視システムを導入している。そこで従来と異なる点を明らかにするために、わかりやすい図を提示している。それは下図のとおりである。



（出典：アイダエンジニアリング統合報告書２０２２）
これに付随するよかった点として、全体的にグラフや図が多いことがあげられる。それ故、多くの情報を少ないページで入手でき、またわかりやすくまとめられるからである。